

中学生の「税についての作文」優秀作品
『十日町納税貯蓄組合連合会 優秀賞』

日本人の税への意識

十日町市立 川西中学校 2年
水 落 蓮 乃

私は、これまで税に関して、興味や知識はなく、なぜ必要なのかも分からず、なくても良いのではないかと、思っていました。しかし、この作文をかくにあたって行われた租税教室で、私の税に対する意識が変わったのです。

まず、税金の使いみちについて知りました。私たちが納めた税金は、道路整備や除雪、病院や警察署などの建設、介護、私たちが毎日のように使う教科書など、様々なものに使われています。税がなければ、学校や病院、消防、警察がないだけでなく、道路の整備がされないため事故も起きてしまいます。

つぎに、税はなんのためにあるのか、ということです。税は、豊かな生活のため、安心なくらし、文化的なくらしのため、健康に生きるためなど、様々な目的があります。これは、どの目的も国民のために考えられていると感じました。

つぎに、税への工夫です。税金には、国民から公平に集めるための工夫があります。日本には、約五十種類の税金があります。この約五十種類の税金によって、人々の意見のちがいが調整されるという工夫があります。他にも、特定の人から集める自動車税や、固定資産税、負担する能力に応じて集める所得税や贈与税があります。このように、国民から公平に集めるための工夫がされているのです。

日本では、税金というとあまり良いイメージを持ちませんが、それは他の国も同じなのでしょうか。例えば、スウェーデンの税金は、日本の二倍以上の二十五パーセントです。しかし、スウェーデンは日本とちがひ、不満を持つ人が少ないのです。それはなぜでしょうか。理由として考えられるのが、食料消費税は十二パーセント、新聞や交通機関は六パーセントと、軽減税率が設けられ実生活の負担を感じにくい仕組みとなっていたり、出産費、二十歳までの医療費や大学までの学費が無料などの負担率に応じた手厚い社会保障サービスが提供されていることが考えられます。日本には、このような、手厚いサービスや仕組みが少ないため、公平に集めるための工夫をしても、税金に不満を持つ人が多くいるのではないのでしょうか。これを改善するため、税の使いみちを明確にさせる、支援やサービスを提供するということが大切だと思います。

このように、税についての興味も知識もなかった私ですが、税について調べ、学んだことによって税の必要性や海外との比較、日本の税の課題まで考えられるようになりました。国民がもっと税について興味を持ち、学ぶことで、税に対する不満を減らし、税への見方や意識を変えていけば、もっと生活しやすく、より良い社会づくりが実現できるのではないかと、私は考えます。